

形質変更時要届出区域台帳

栃木県

整理番号	平-30-1	指定年月日・指定番号	平成30(2018)年8月17日 形-16	所在地	河内郡上三川町大字上蒲生2805番の一部	
調製・訂正年月日	平成30(2018)年8月17日調製 (令和元(2019)年7月8日訂正 (土地の形質の変更の実施状況))					
形質変更時要届出区域の概況	事業場				面積	200 m ²
法第14条第3項の規定に基づき指定された形質変更時要届出区域にあっては、その旨	-					
最大形質変更深さより1メートルを超える深さの位置について試料採取等の対象としなかった土壌汚染状況調査の結果により指定された形質変更時要届出区域にあっては、その旨、当該試料採取等の対象としなかった深さの位置及び特定有害物質の種類	-					
土壌汚染のおそれの把握等、試料採取等を行う区画の選定等又は試料採取等を省略した土壌汚染状況調査の結果により指定された形質変更時要届出区域にあっては、その旨及び当該省略の理由	-					
汚染の除去等の措置が講じられた形質変更時要届出区域にあっては、その旨及び当該汚染の除去等の措置	-					
第58条第5項第10号から第13号までに該当する区域にあっては、その旨	-					
形質変更時要届出区域内の土壌の汚染状態	報告受理年月日	指定に係る特定有害物質の種類		適合しない基準項目		指定調査機関の名称
	平成30(2018)年 6月20日	鉛及びその化合物		含有量基準・溶出量基準・第二溶出量基準		(株)住化分析センター
				含有量基準・溶出量基準・第二溶出量基準		
				含有量基準・溶出量基準・第二溶出量基準		
				含有量基準・溶出量基準・第二溶出量基準		
土地の形質の変更の実施状況	届出(着手)時期	完了時期	土地の形質の変更の種類	実施者	土壌搬出	汚染土壌の処理方法
	平成30(2018)年 9月20日	平成31(2019) 年4月10日	汚染土壌の除去、土壌入れ替え、舗装	(株)大林組	有・無	浄化(抽出-洗浄)
					有・無	
					有・無	

備考1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。

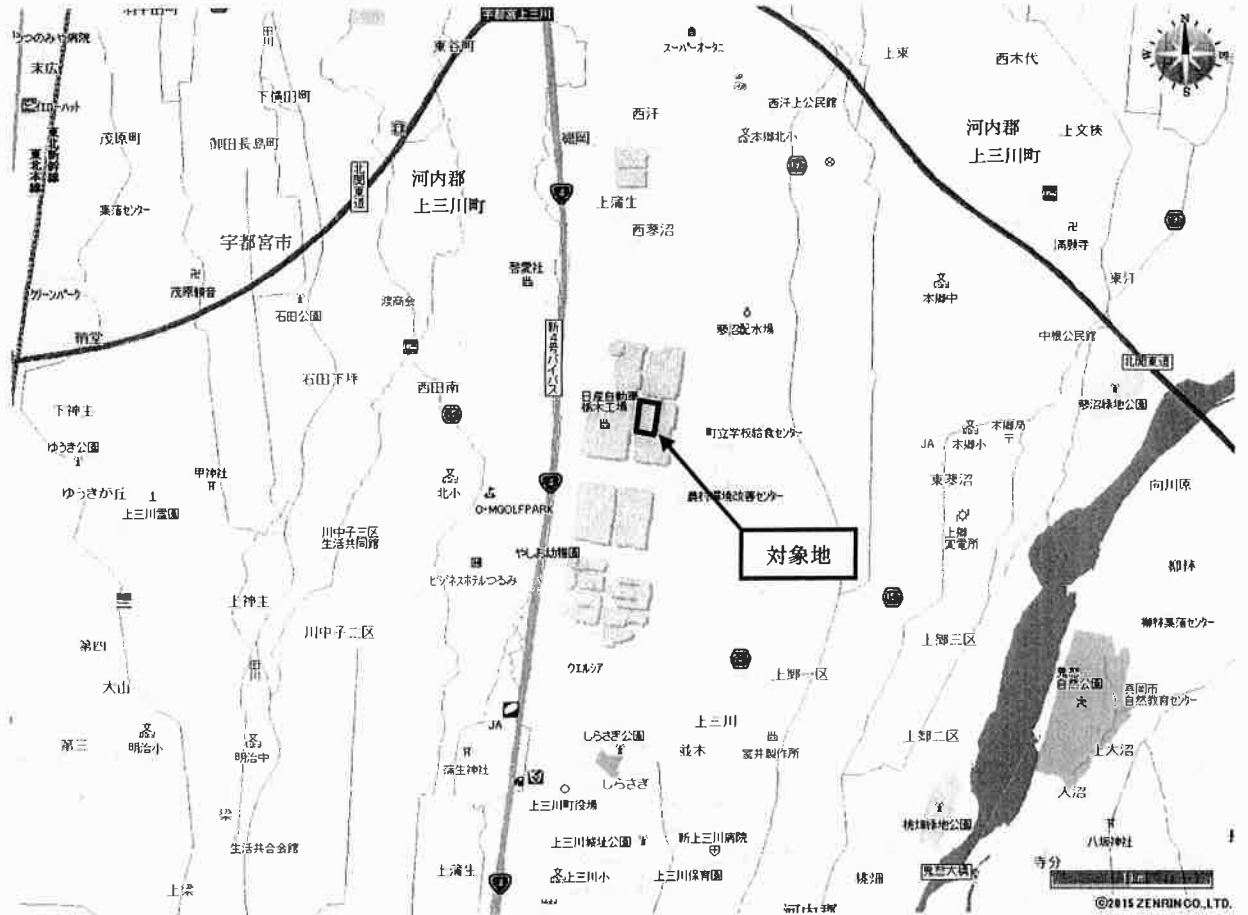
2 「形質変更時要届出区域内の土壌の汚染状態」については、土壌その他の試料の採取を行った日、当該試料の測定の結果等を記載した書類を添付すること。

2. 資料等調査

資料等調査の調査結果について以下に示す。

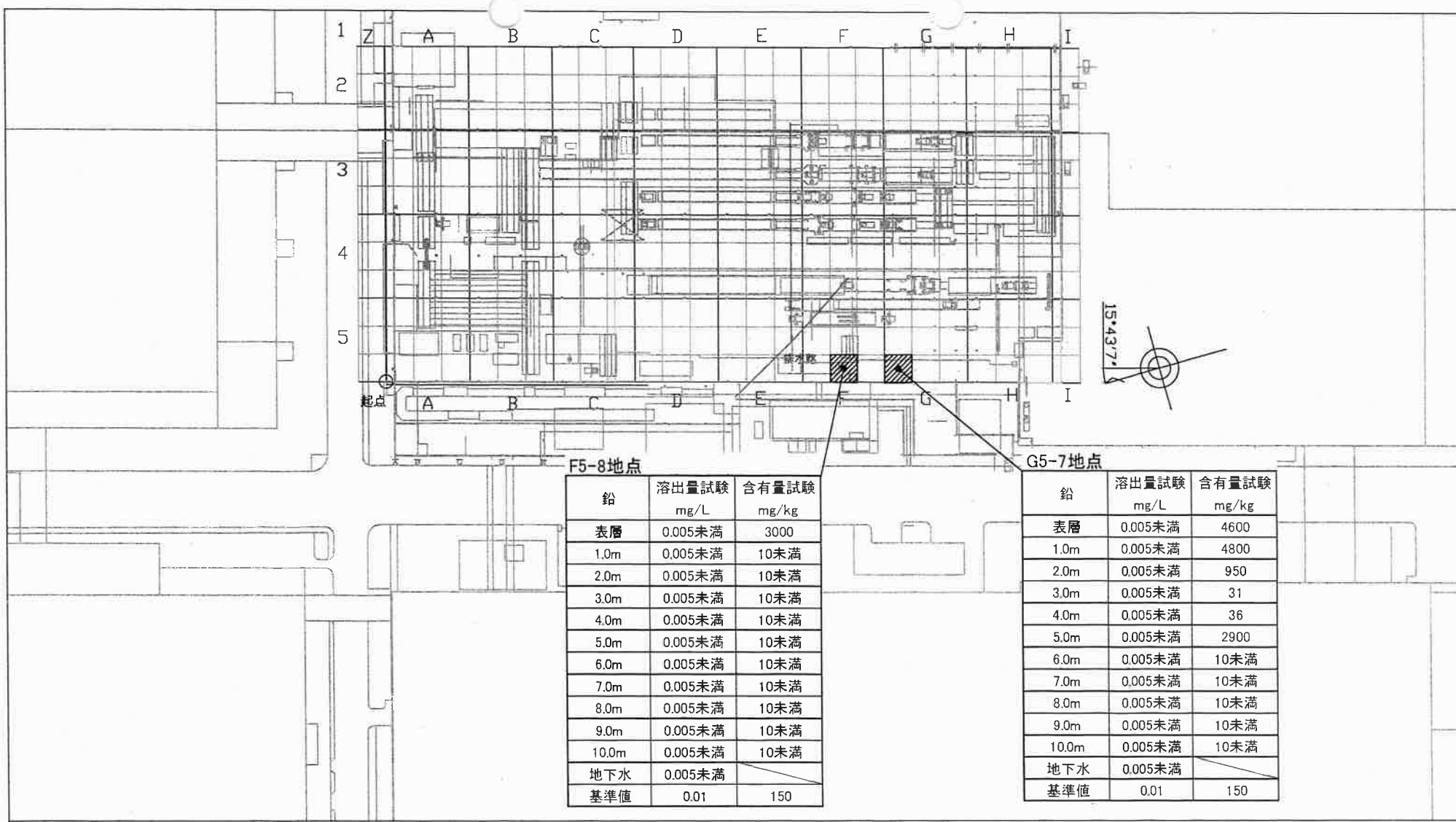
2. 1 調査箇所

対象箇所は、上三川町役場の北北東方約 2.3km で、国道 4 号線石橋宇都宮パイパスのほぼ東方約 520m に位置する。



(Z18BC 第 1035 号)

図 2-1 対象地



F5-8地点

鉛	溶出量試験 mg/L	含有量試験 mg/kg
表層	0.005未満	3000
1.0m	0.005未満	10未満
2.0m	0.005未満	10未満
3.0m	0.005未満	10未満
4.0m	0.005未満	10未満
5.0m	0.005未満	10未満
6.0m	0.005未満	10未満
7.0m	0.005未満	10未満
8.0m	0.005未満	10未満
9.0m	0.005未満	10未満
10.0m	0.005未満	10未満
地下水	0.005未満	
基準値	0.01	150

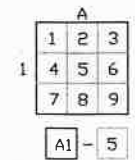
G5-7地点

鉛	溶出量試験 mg/L	含有量試験 mg/kg
表層	0.005未満	4600
1.0m	0.005未満	4800
2.0m	0.005未満	950
3.0m	0.005未満	31
4.0m	0.005未満	36
5.0m	0.005未満	2900
6.0m	0.005未満	10未満
7.0m	0.005未満	10未満
8.0m	0.005未満	10未満
9.0m	0.005未満	10未満
10.0m	0.005未満	10未満
地下水	0.005未満	
基準値	0.01	150

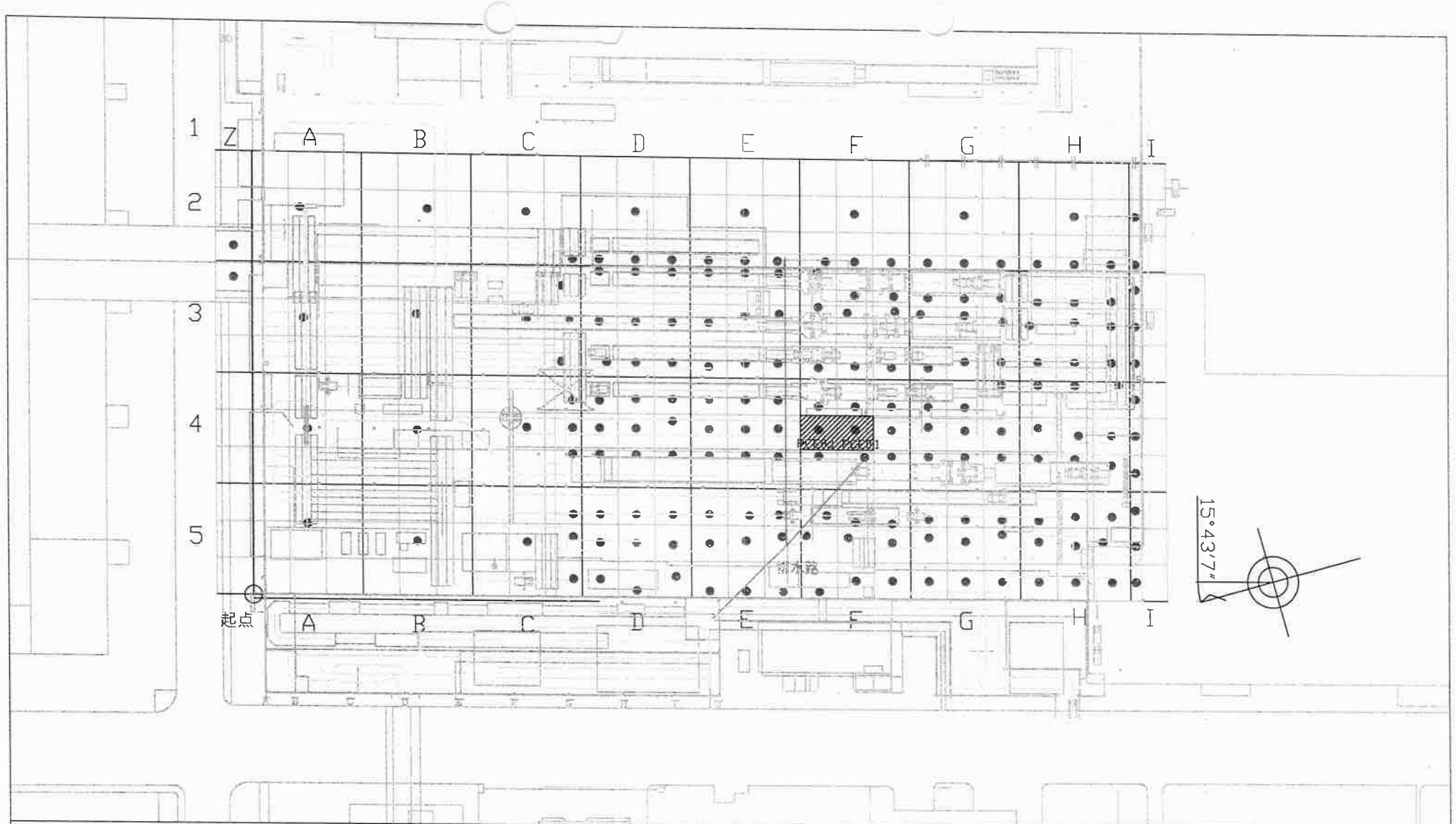
(凡例)

- 深度方向調査地点：2地点
- 基準超過区画：2区画
- 特定有害物質取扱い範囲
- 排水路
- 単位区画(10m×10m=100m²)
- 30m格子(30m×30m=900m²)
- 調査対象範囲(解体範囲) 面積29,322m²
*面積は、図面上で算出した数値です。
- 統合区画
- ※赤字は基準超過を示す。
- ※表層とは0~5cm, 5~50cmの混合試料を示す。

メッシュコードの表示例



図面名称	調査結果図 *深度方向調査
調査項目	第二種特定有害物質 *鉛
縮尺	1:2000
図面番号	図3.4
作成月	平成30年6月
作成会社名	



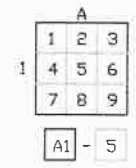
(凡例)

- 土壌ガス調査地点：190地点
- ▨ 土壌ガス検出地点：2地点
F4-4、F4-5：トリクロロエチレン(PCE)0.1volppm

- 単位区画(10m×10m=100m²)
- 30m格子(30m×30m=900m²)
- 調査対象範囲(変更部) 面積29,322m²
*面積は、図面上で算出した数値です。
- 特定有害物質取扱い範囲
- 排水路

≡ 統合区画

マッシュコードの表示例



図面名称	調査結果図 *土壌ガス調査
調査項目	第一種特定有害物質 *DCM,PCE,Bz,分解生成物
縮尺	1:1500
図面番号	図2.15
作成月	平成30年4月
作成会社名	



地点名: F5-8

測定項目	鉛	
	溶出量試験 (mg/L)	含有量試験 (mg/kg)
深度		
表層	0.005未満	3000

地点名: G5-7

測定項目	鉛	
	溶出量試験 (mg/L)	含有量試験 (mg/kg)
深度		
表層	0.005未満	4600

〈凡例〉

- 表層土壌採取地点: 259地点
- + 表層土壌試料数: 190検体
 - ・5地点混合試料: 17検体
 - ・2地点混合試料: 1検体
 - ・単地点試料: 172検体
- ▨ 基準超過区画: 2区画
- 特定有害物質取扱い範囲

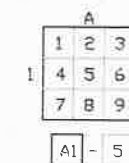
- 排水路
- 単区画 (10m×10m = 100m²)
- 30m格子 (30m×30m = 900m²)
- 調査対象範囲 (解体範囲) 面積29,322m²
*面積は、図面上で算出した数値です。

— 統合区画

項目	基準	
	溶出量試験 (mg/L)	含有量試験 (mg/kg)
鉛	0.01	150

※赤字は基準超過を示す。
※表層とは0~5cm, 5~50cmの混合試料を示す。

メッシュコードの表示例



図面名称	調査結果図 *表層土壌調査
調査項目	第二種特定有害物質 *鉛
縮尺	1:1500
図面番号	図2.16
作成月	平成30年4月
作成会社名	

3.5 調査結果

(1)地質状況

ボーリングコア観察より、調査地点の主な地層層序の概要を表 3.3 にまとめた。地下水面は概ね深度 5m 程度に確認された。詳細は巻末に地質柱状図を添付した。

表 3.3 主な地層層序

土質名	深度	土性特徴
埋土	-3.0m~-5.0m 以浅	礫混じり粘土~粘土主体
砂礫	-3.0m~-5.0m 以深	φ2~50mm 程度の亜角~亜円礫主体

(2) 第一種特定有害物質調査結果

第一種特定有害物質 5 項目（テトラクロロエチレン及びその分解生成物）の土壤調査結果を表 3.2~表 3.3、地下水調査結果を表 3.4 に示し、図 3.3 に纏めた。また濃度計量証明書を巻末に添付した。調査の結果、何れの地点も土壤溶出量基準以下であり、地下水基準以下であった。

表 3.2 第一種特定有害物質の土壤調査結果 (F4-4 地点) (単位: mg/L)

深度\項目	クロロエチレン	1,1-ジクロロエチレン	シス-1,2-ジクロロエチレン	テトラクロロエチレン	トリクロロエチレン
表層	ND	ND	ND	ND	ND
0.5m	ND	ND	ND	ND	ND
1.0m	ND	ND	ND	ND	ND
2.0m	ND	ND	ND	ND	ND
3.0m	ND	ND	ND	ND	ND
4.0m	ND	ND	ND	ND	ND
5.0m	ND	ND	ND	ND	ND
6.0m	ND	ND	ND	ND	ND
7.0m	ND	ND	ND	ND	ND
8.0m	ND	ND	ND	ND	ND
9.0m	ND	ND	ND	ND	ND
10.0m	ND	ND	ND	ND	ND
土壤溶出量基準	0.002	0.1	0.04	0.01	0.03
定量下限値	0.0002	0.002	0.004	0.0005	0.002

※ND: 不検出(定量下限値未満)であることを示す。

※表層: 0~5cm の試料を示す。

表 3.3 第一種特定有害物質の土壌調査結果 (F4-5 地点) (単位: mg/L)

深度\項目	クロロエチレン	1,1-ジクロロエチレン	シス-1,2-ジクロロエチレン	テトラクロロエチレン	トリクロロエチレン
表層	ND	ND	ND	ND	ND
0.5m	ND	ND	ND	ND	ND
1.0m	ND	ND	ND	ND	ND
2.0m	ND	ND	ND	ND	ND
3.0m	ND	ND	ND	ND	ND
4.0m	ND	ND	ND	ND	ND
5.0m	ND	ND	ND	ND	ND
6.0m	ND	ND	ND	ND	ND
7.0m	ND	ND	ND	ND	ND
8.0m	ND	ND	ND	ND	ND
9.0m	ND	ND	ND	ND	ND
10.0m	ND	ND	ND	ND	ND
土壌溶出量基準	0.002	0.1	0.04	0.01	0.03
定量下限値	0.0002	0.002	0.004	0.0005	0.002

※ND: 不検出(定量下限値未満)であることを示す。

※表層: 0~5cm の試料を示す。

表 3.4 第一種特定有害物質の地下水調査結果 (単位: mg/L)

地点\項目	クロロエチレン	1,1-ジクロロエチレン	シス-1,2-ジクロロエチレン	テトラクロロエチレン	トリクロロエチレン
F4-4 地点	ND	ND	0.004	0.0012	0.003
F4-5 地点	ND	ND	0.005	0.0014	0.003
地下水基準	0.002	0.1	0.04	0.01	0.03
定量下限値	0.0002	0.002	0.004	0.0005	0.002

※ND: 不検出(定量下限値未満)であることを示す。

(3) 第二種特定有害物質調査結果

鉛の土壌調査結果を表 3.5、地下水調査結果を表 3.6 に示し、図 3.4 に纏めた。また濃度計量証明書を巻末に添付した。調査の結果、F5-8 地点は深度 1.0m 以深は何れも不検出であったが、G5-7 地点は深度 1.0m、2.0m、5.0m で土壌含有量基準を超過した。なお地下水は不検出であった。

表 3.5 鉛の土壌調査結果

深度\地点	F5-8 地点		G5-7 地点	
	土壌溶出量 (mg/L)	土壌含有量 (mg/kg)	土壌溶出量 (mg/L)	土壌含有量 (mg/kg)
1.0m	ND	ND	ND	4800
2.0m	ND	ND	ND	950
3.0m	ND	ND	ND	31
4.0m	ND	ND	ND	36
5.0m	ND	ND	ND	2900
6.0m	ND	ND	ND	ND
7.0m	ND	ND	ND	ND
8.0m	ND	ND	ND	ND
9.0m	ND	ND	ND	ND
10.0m	ND	ND	ND	ND
土壌溶出量基準 土壌含有量基準	0.01	150	0.01	150
定量下限値	0.005	10	0.005	10

※ND：不検出（定量下限値未満）であることを示す。
赤文字：基準超過であることを示す。

表 3.6 鉛の地下水調査結果（単位：mg/L）

地点\項目	鉛
F5-8 地点	ND
G5-7 地点	ND
地下水基準	0.01
定量下限値	0.005

※ND：不検出（定量下限値未満）であることを示す。

3.6 第 2 次調査のまとめ

テトラクロロエチレンの土壌ガスが検出された 2 地点（F4-4 地点、F4-5 地点）にてボーリング調査を実施した結果、何れの地点も土壌溶出量基準及び地下水基準を満足した。

鉛の土壌含有量基準を超過した 2 地点（F5-8 地点、G5-7 地点）にてボーリング調査を実施した結果、F5-8 地点は深度 1.0m 以深の何れも不検出であったが、G5-7 地点は深度 1.0m、2.0m、5.0m で土壌含有量基準を超過した。なお地下水は不検出であった。